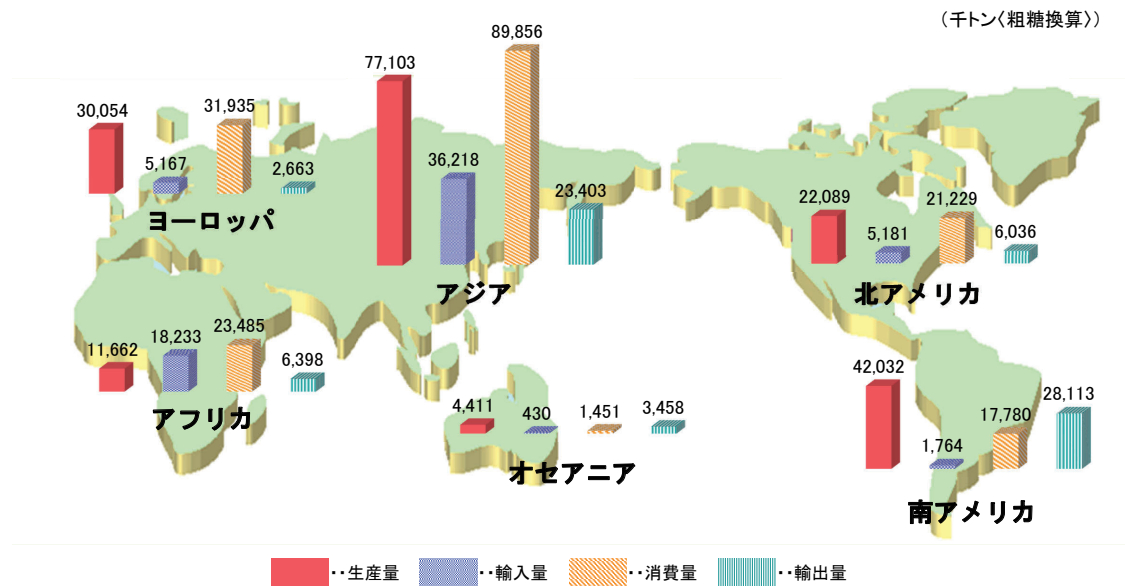


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2022年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2021/22年度予測値）



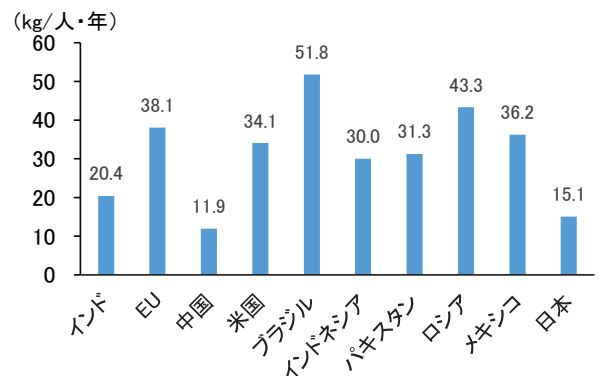
資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2022年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2021/22砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8735万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比2.9%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。南アメリカでは主産地であるブラジルの生産量減少の影響を受けて前年度を下回るものの、その他の地域では前年度を上回る見通しである。

また砂糖消費量は、中国で横ばいが見込まれるものの、主要消費国であるインドを筆頭に、EU、米国、インドネシアなどで増加が見込まれ、全体としては1億8574万トン（同0.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

期末在庫率は、前年度比1.1ポイント減の40.9%と見込まれる。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

（参考）一人当たり砂糖消費量（2021/22年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」
 注1：年度は各国の砂糖年度。
 注2：EUには、英国を含む。
 注3：図2の消費量上位9カ国および日本を表示。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,844	67,989	80,969	44.8
2018/19	80,969	186,495	61,054	182,853	61,597	84,068	46.0
2019/20	84,068	181,298	69,391	182,138	71,841	80,778	44.3
2020/21	80,778	181,989	67,275	184,545	68,128	77,369	41.9
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2
2021/22 (2022年6月予測)	77,369	187,351	66,992	185,735	70,070	75,907	40.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

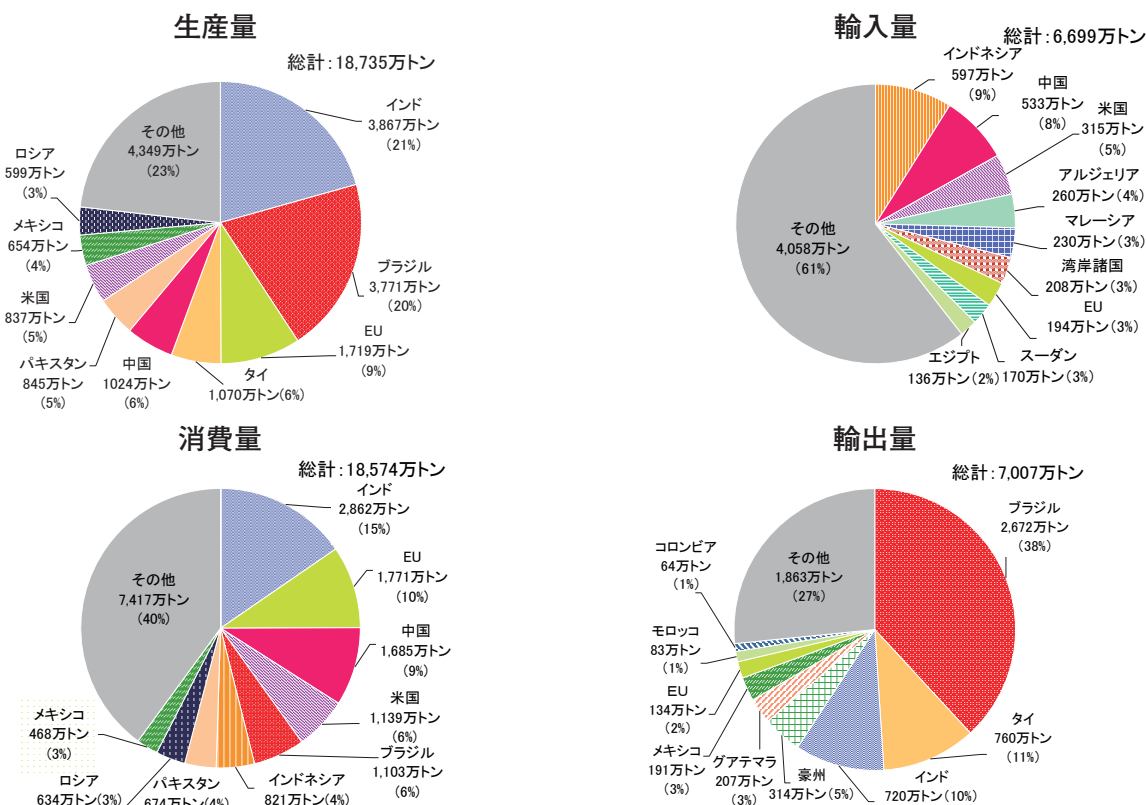
注2：2019/20年度および2020/21年度の数は推定値、2021/22年度の数は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2022年6月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2021/22年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

インドは、サトウキビ生産量が国内第2位のマハラシュトラ州と第3位のカルナータカ州で記録的な豊作が見込まれるため、3867万トン（前年度比14.9%増）とかなり大きく増加し、ブラジルを抜いて生産量第1位となることが見込まれる（図2）。

ブラジルは、干ばつや霜害などの影響を受けて3771万トン（同15.4%減）とかなり大きく減少し、第2位に後退すると見込まれる。

また、てん菜糖が主体となるEUにおいては、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、大規模な病虫害も発生していないため、1719万トン（同14.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

【輸入量】

インドネシアは、主に家庭での砂糖消費の増加に伴い597万トン（前年度比2.0%増）とわずかに増加し、中国を抜いて輸入量第1位となることが見込まれる。

中国では、2020年に引き続き2021年も国内需要を上回る量の砂糖を輸入したことで、国内在庫の積み増しが想定されることから、533万トン（同33.8%減）と大幅に減少し、インドネシアに首位の座を明け渡すと見込まれる。

【消費量】

消費量第1位のインドは、人口の増加に伴い、2862万トン（前年度比1.1%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の15%を占めると見込まれる。

続くEUは、ウクライナからの600万人の難民流入や砂糖需要の回復を受けて前回予測から上方修正され、1771万トン（同5.9%増）と新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前と同等の消費が見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1685万トン（前年度同）と横ばいで推移し、EUの水準をやや下回ると見込まれる。

【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、砂糖の減産のほか、海上運賃の高騰を受けてインドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下していることから、2672万トン（前年度比21.5%減）と大幅に減少するものの、世界の砂糖輸出の4割弱を占めると見込まれる。

タイは、760万トン（同92.3%増）と大幅な増加が見込まれ、インド産砂糖輸出量の下方修正に伴い、第3位から第2位に順位を上げるとみられる。

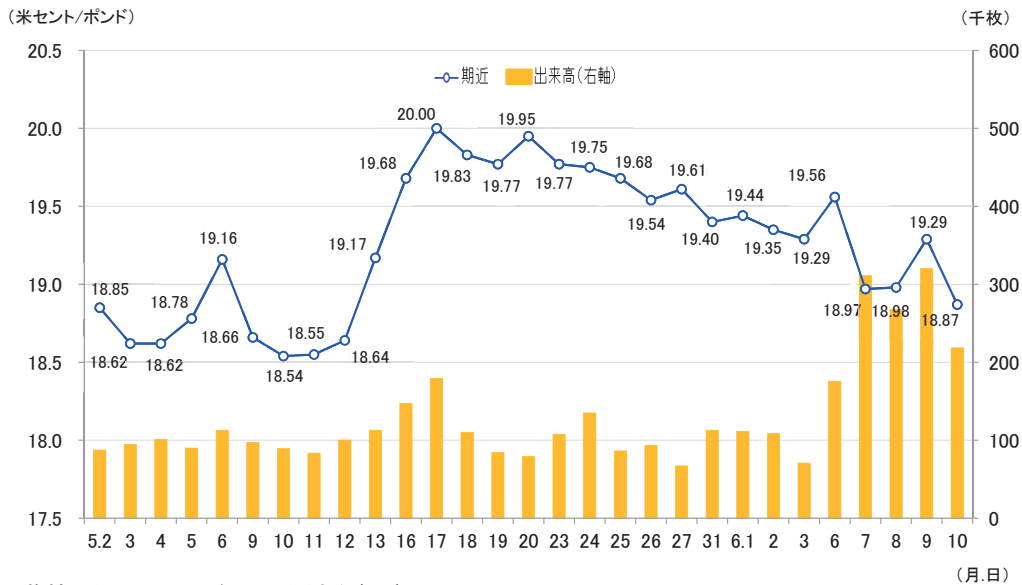
続くインドは、前回予測では857万トンと第2位だったものの、インド政府が同年度の輸出に際し許可制を導入したことを受けて前回予測から下方修正されて第3位に順位を下げ、720万トン（同14.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (5/2 ~ 6/10)

～5月中旬に急上昇し20セント台に乗せるも、月末から6月上旬にかけては下落傾向～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2022年5月の推移を見ると（7月限）、2日は、レアル安^{（注1）}を背景に1ポンド当たり18.85セント^{（注2）}を付けた。3日以降は、原油相場の動きに追随する形となり^{（注3）}、6日は、同19.16セントまで上昇したが、9日は、同18.66セントまで下落した。10日は、22/23年度の世界の砂糖供給量が消費量を400万トン上回ると大手金融企業が予測したことで、同18.54セントまで下落した。13日は、原油価格の上昇を受けて、同19.17セントまで急上昇した。16日は、ブラジルの砂糖生産地に霜が降る恐れがあると予報されたことで同19.68セントまで上昇し、17日は、同20.00セントまで続伸した。19日は、インド製糖協会（ISMA）が同国の5月15日時点の砂糖生産実績を前年同期比増と公表したことや、ブラジルの霜害リスクが低下したことを受けて、同19.77セントまで値を下げた。その後は小幅な値動きで推移し、

27日は、レアル高により同19.61セントとやや上昇したが、31日は、原油価格の下落に伴い、同19.40セントまで値を下げた。

6月1日は、原油価格の上昇を背景に同19.44セントとわずかに値を上げた。6日は、ガソリンの先物市場が高値を記録したことを受けて、同19.56セントまで上昇した。7日は、レアル安により同18.97セントまで下落した。9日は、ガソリン価格の上昇を背景に、同19.29セントまで値を戻した。10日は、米国の5月の経済指標（消費者物価指数）が上昇して40年ぶりの記録的な水準となり、米国と世界経済に対する懸念が高まったことなどから、同18.87セントまで下落した。

（注1）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につ

ながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 原油価格と粗糖価格は、連動する傾向にある（例

えば、原油価格が下落すると、石油の代替性を有するバイオエタノールの価格も下落するため、バイオエタノールの原料となるサトウキビを砂糖へ仕向ける割合が高まると想定される。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2022年6月時点予測）

ブラジル

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：848万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億500万トン（同4.9%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3927万トン（同4.1%増）

輸出量：2835万トン（同6.1%増）

2022/23年度の砂糖生産量はやや、輸出量はかなりの程度増加する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されているものの、前年度の不作による苗不足から、848万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少すると見込まれる（表2）。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域において平年より乾燥したものの、サトウキビの生育に好条件が続いたことにより6億500万トン（同4.9%増）とやや増加すると見込ま

れる。砂糖生産量は、ガソリンなどの燃料にかかる商品流通サービス税（ICMS）の引き下げが6月に上院で可決されたことを受けて、エタノールのガソリンに対する価格競争力が下がり、製糖業者は砂糖製造への仕向け量を増やすと予想されることから、3927万トン（同4.1%増）とやや増加すると見込まれる。輸出量は、砂糖の増産や国際価格の高値基調などを受けて2835万トン（同6.1%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

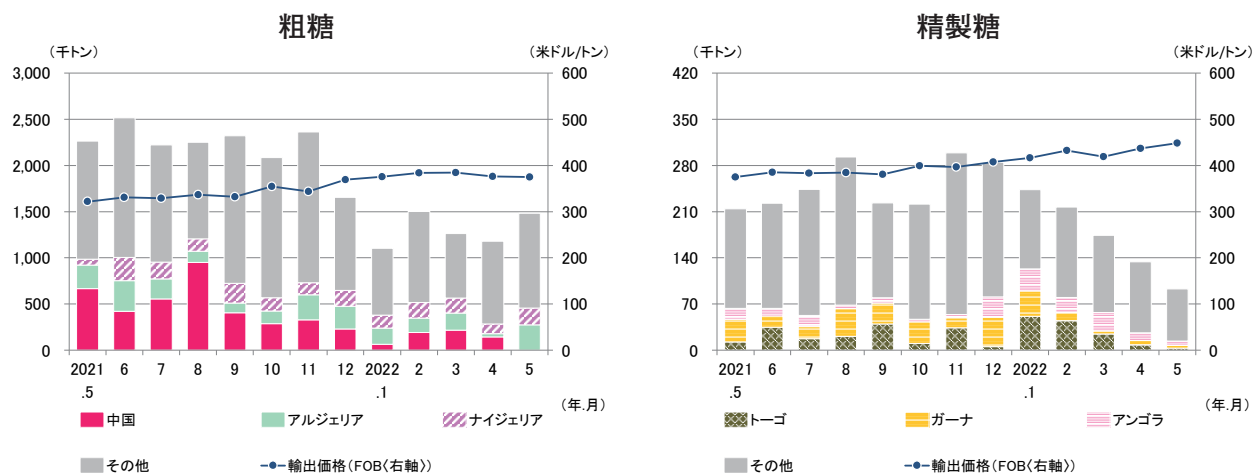
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,483	8,483	▲ 2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	605,000	605,000	4.9%	
砂糖	生産量	31,804	44,597	37,710	37,750	39,270	4.1%
	輸入量	2	2	2	5	2	0.0%
	消費量	10,842	10,996	11,034	10,666	10,924	▲ 1.0%
	輸出量	20,321	34,042	26,718	27,082	28,346	6.1%
	期末在庫量	3,774	3,336	3,297	3,188	3,299	0.1%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.7	8.4	8.4	0.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：517万ha（前年度比5.3%増）

生産量：4億4311万トン（同5.1%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3867万トン（同14.9%増）

輸出量：720万トン（同14.8%減）

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく増加するものの、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、517万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。主産地での降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億4311万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した収穫期

前の大雨の影響が想定より軽微であったことや、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州のサトウキビ生産量が過去最多を記録するとみられることから、3867万トン（同14.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、インド政府が同年度の輸出に際し許可制を導入したことを受けて先月予測の1075万トンから下方修正され、720万トン（同14.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

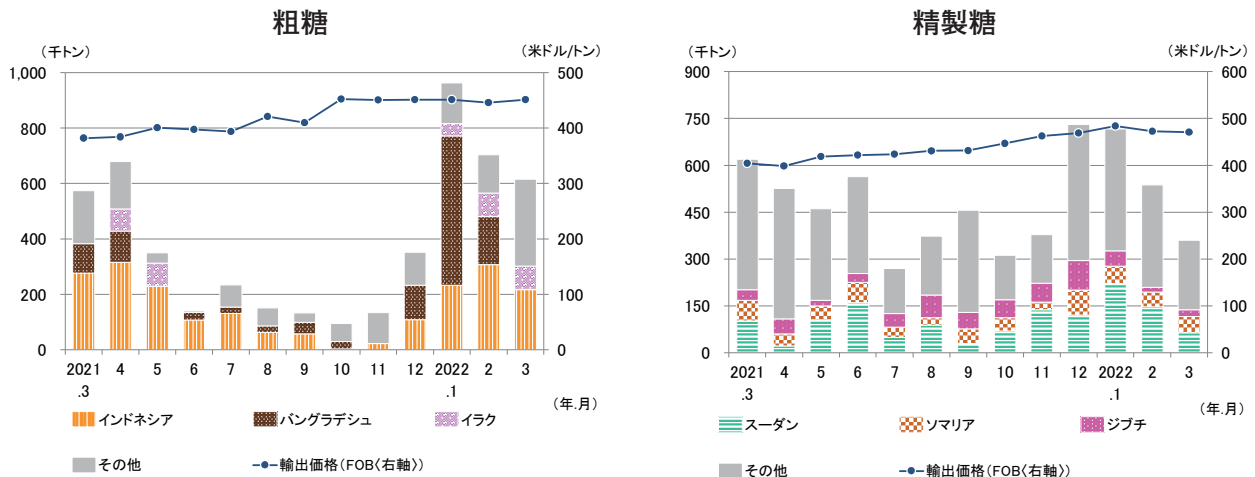
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,906	5,165	5,165	5.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,805	421,687	447,187	443,110	5.1%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	38,688	38,666	14.9%
	輸入量	664	1,686	1,022	144	270	▲73.6%
	消費量	27,540	27,108	28,296	29,376	28,620	1.1%
	輸出量	5,504	8,288	8,449	10,750	7,195	▲14.8%
	期末在庫量	14,941	10,775	8,694	6,559	11,815	35.9%
	期末在庫率	45.2	30.4	23.7	16.3	33.0	9.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha(前年度比3.6%減)

生産量：7389万トン(同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積：14万ha(同37.8%減)

生産量：717万トン(同42.1%減)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1024万トン(同11.2%減)

輸入量：533万トン(同33.8%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、 輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール(前年度比3.6%減)とやや減少すると見込まれる(表4)。サトウキビ

生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の好天などを受けて7389万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により、14万ヘクタール(同37.8%減)と大幅に

減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少や冬季の寒波などを背景に、717万トン（同42.1%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、てん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停止や、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞などを受けて1024万トン（同11.2%減）とかなり大きな減少が見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き2021年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増されたことから、533万トン（同33.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。

広西チワン族自治区でサトウキビ生産者向けの新保険制度を開始

中国財政部、農業農村部および中国銀行業監督管理委員会（CBRC）は5月7日、^{こうせい}広西チワン族自治区のサトウキビ生産者を対象に、主要な自然災害のほか、虫害や鼠害および想定外の事故などを対象に農業生産活動に係る経費を補償する「完全コスト保険」（原文：完全成本保險）と、サトウキビの価格と生産量の変動による収入の損失を補償する「作付収入保険」（原文：种植收入保險）を新たに実施するよう、同区の関係部門に通知を发出した。国内砂糖生産量第1位を誇る同区の砂糖産業のリスク耐性を強化し、砂糖供給体制を安定させることが目標とされている（図4）。

財政部によると、完全コスト保険と作付収入保険はもともと、米、小麦およびトウモロコシ生産者向けに2018年から試験的に導入されたものである。これらの保険を導入することにより、生産者は損失対象や補償額が増えるという。サトウキビ生産者の負担率を変えないことを前提に、同地区の平均的な

サトウキビ生産者の収入で試算すると、最高補償水準は1ムー^(注1)当たり約2400元（4万6752円^(注2)、1ヘクタール当たり約70万円）となり、サトウキビ生産者向けの既存の保険の3倍に達すると財務部は説明している^(注3)。一方、既存の保険は残すことで、保険ニーズの多様化に対応することとしており、サトウキビ生産者は圃場の面積に関わらず、2022年から自由に保険を選択することが出来る。

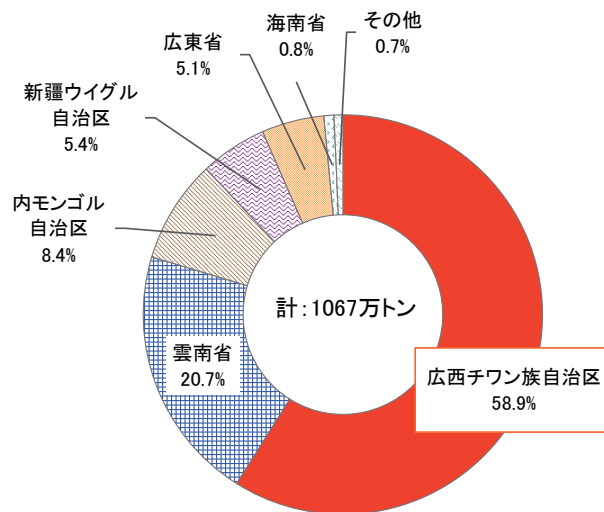
（注1）1ムー＝0.0667ヘクタール。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の5月末TTS相場1中国人民元＝19.48円を使用。

（注3）完全コスト保険および作付収入保険の補償水準は、原則としてサトウキビ栽培による収入の80%以下とされている。

（注4）詳細は、2022年6月29日付海外情報（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003286.html）を参照されたい。

図4 主要生産地別の砂糖生産量



資料：中国農業展望報告（2022-2031）を基に農畜産業振興機構作成
注：2020/21年度（10月～翌9月）の数値。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

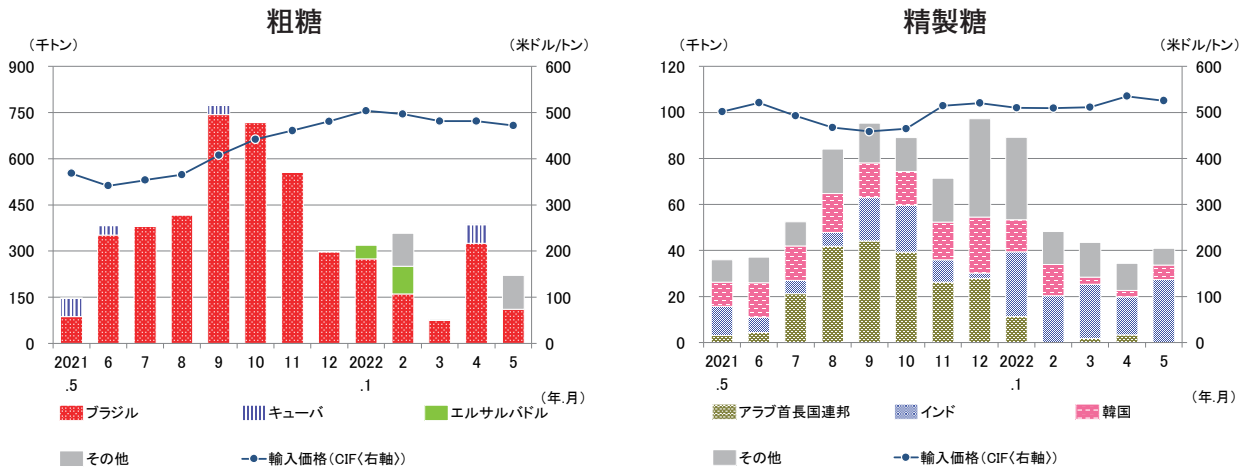
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲ 3.6%	
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%	
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲ 37.8%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	7,177	7,170	▲ 42.1%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	9,946	10,236	▲ 11.2%
	輸入量	5,052	6,742	8,052	6,800	5,332	▲ 33.8%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	128	176	32.8%
	期末在庫量	11,233	12,628	15,230	15,030	13,774	▲ 9.6%
	期末在庫率	67.1	76.0	89.7	88.5	80.9	8.8ポイント減

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha(前年度比1.4%減)

生産量：1億1031万トン(同12.1%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1719万トン(同14.0%増)

輸出量：134万トン(同5.9%増)

2021/22年度の輸出量は、やや増加する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール(前年度比1.4%減)とわずかな減少が見込まれる(表5)。てん菜生産量は、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、大規模な病虫害も今期は発生していないため、

1億1031万トン(同12.1%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、生育期の多雨により、てん菜の生育状況が順調であったことから、1719万トン(同14.0%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、砂糖の増産などを受けて134万トン(同5.9%増)とやや増加する

と見込まれる。

てん菜生産者団体、肥料価格やエネルギー価格の高騰を問題視

欧州てん菜生産者連盟(CIBE)は6月1日～3日、ポーランドで46回目となる会議を開催し、業界関係者約150人が参加した。会議報告書では、てん菜栽培にかかる肥料費、燃料費や農薬費の上昇により、2022年のてん菜生産コストは前年比で2～3割程度の増加が見込まれている。また、欧州では天然ガスをはじめとしたエネルギー価格がさらに高騰し、てん菜生産コストを著しく引き上げるものと予想されている。

CIBEは、EUで2017年に砂糖の生産割当が廃止されて以降、砂糖価格の低下やCOVID-19による砂

糖需要の低下など、さまざまな危機が砂糖産業を弱体化させている中、生産コストの上昇は真っ先に対処されるべき重要事項であり、欧州の砂糖価格に生産コスト上昇分が適切に反映される必要があるとした。また、EU最大の農業生産者団体である欧州農業組織委員会・欧州農業協同組合委員会(Copa-Cogeca^(注))による、EU全体で肥料の供給や肥料価格の高騰に対する支援を早急に行うべきとの主張に対し、CIBEも賛同の意を表明した。

(注) Copa-Cogecaとは、欧州諸国の農業生産者によって構成されるCopa(欧州農業組織委員会)と、EU加盟国の農業共同組合により構成されるCogeca(欧州農業協同組合委員会)により組織された農業生産者団体である。CopaとCogecaは、独立した組織であるものの、両者は共同で事務局を設置し、主にロビー活動を行っている。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,476	1,456	1,456	▲ 1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,420	110,196	110,308	12.1%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,081	17,109	17,191	14.0%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,945	1,935	2.5%
	消費量	17,647	17,016	16,723	17,410	17,708	5.9%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,275	1,336	5.9%
	期末在庫量	1,598	2,347	1,332	1,701	1,414	6.2%
	期末在庫率	8.0	12.7	7.4	9.1	7.4	0.0ポイント増

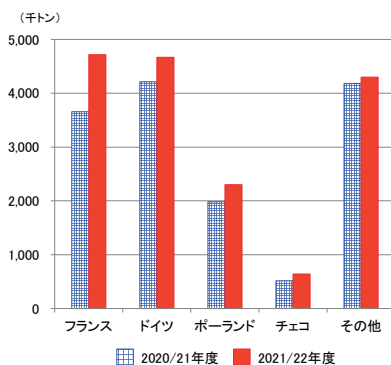
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

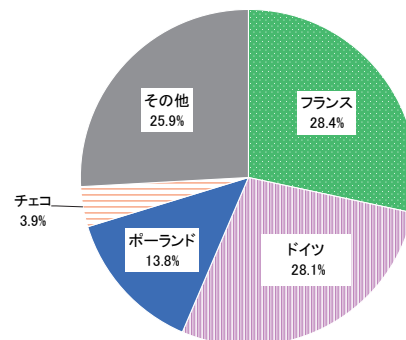
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合(2022年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2021/22年度は予測値。

国別の生産割合(2021/22年度)



資料：欧州委員会

5. 日本の主要輸入先国の動向（2022年6月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイで、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度同）
生産量：3017万トン（前年度比0.2%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：424万トン（同2.1%増）
輸出量：328万トン（同4.4%増）

2022/23年度の砂糖生産量は、増産の見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度同）、サトウキビ生産量は、3017万トン（前年度比0.2%増）とともに横ばいで推移すると見込まれる（表6）。砂糖生産量は、2022年初頭の多雨により、サトウ

キビの品質向上が見込まれることや、主だった病虫害の発生もないことなどを受け、業界関係者の多くが増産を見込んでいることなどを踏まえて前月予測から上方修正され、424万トン（同2.1%増）とわずかな増加が見込まれる。輸出量は328万トン（同4.4%増）とやや増加すると見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	364	354	350	347	350	0.0%
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	29,900	30,170	0.2%
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,154	4,188	2.1%
	輸入量	17	10	15	17	13.3%
	消費量	1,056	1,036	1,062	1,032	▲0.6%
	輸出量	3,449	3,357	3,143	3,175	4.4%
	期末在庫量	776	779	743	546	▲10.4%
	期末在庫率	17.2	17.7	17.7	13.0	2.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9207万トン（同38.1%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1070万トン（同34.3%増）

輸出量：760万トン（同92.3%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と横ばいで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9207万トン（同38.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト^{（注）}の普及を背景とした梢頭部^{しょうとうぶ}や葉などの混入が製糖効率を低下させるものの、1070万トン（同34.3%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、760万トン（同92.3%増）と前年比でほぼ倍増すると見込まれる。

（注）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

タイ政府、サトウキビ生産者などを対象とした低利融資制度を承認

タイ政府は5月30日、サトウキビ生産者と農業協同組合を対象とした低利融資の実施を承認した。融資はタイ農業・農業協同組合銀行（BAAC）が行い、1年当たり20億バーツ（76億6000万円^{（注）}）、2022年～24年の3年間で合計60億バーツ（229億8000万円）規模の融資が計画されている。融資の対象となるのは、①農業用水の管理や水源の開発、大規模化を目的とした圃場の整備②収穫機やトラクターなどの農機の購入③トラックの購入一である。返済期間は、①は6年以内、②と③は8年以内とされている。融資利率は、政府からの補てんがない③の場合は4%、それ以外は2%（政府からBAACに対して2%分を補てん）となる。同国政府は本融資により、サトウキビの生産性の向上や、大気汚染物質の発生要因の一つとされているサトウキビの焼き畑の削減を目指すとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の5月末TTS相場1タイバーツ=3.83円を使用。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

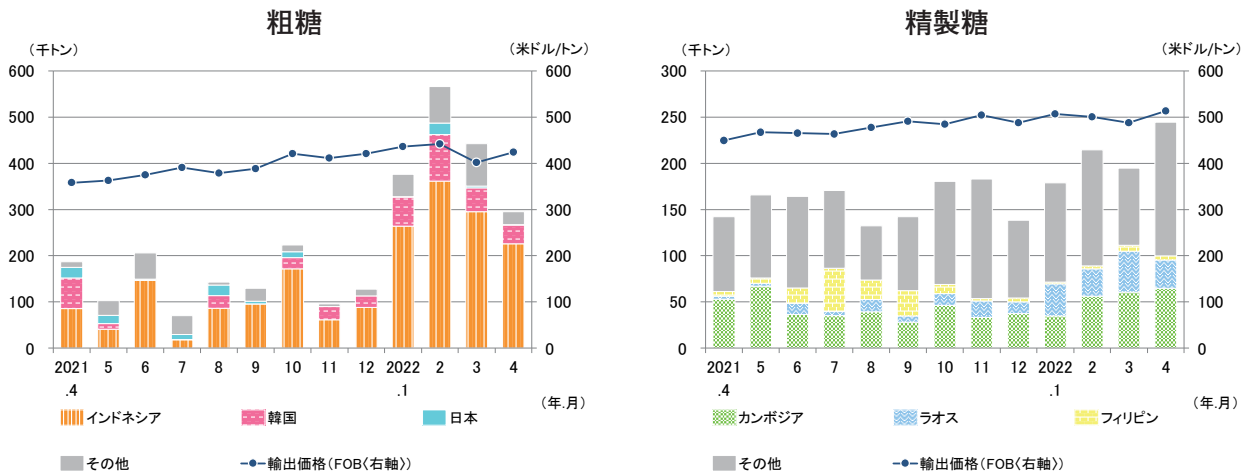
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,000	92,071	38.1%	
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,662	10,703	34.3%
	輸入量	4	59	80	35	3	▲96.2%
	消費量	3,737	3,773	3,700	3,521	3,521	▲4.8%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,651	7,596	92.3%
	期末在庫量	7,899	4,525	4,927	4,567	4,516	▲8.3%
	期末在庫率	57.0	37.0	64.4	40.9	40.6	23.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。